

四肢の震えと歩行困難を主徴とし転換性障害と診断した13歳女子

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山岸, 沙衣, 大谷, ゆい, 伊藤, 進, 白倉, 茉由子, 元栄, 薫子, 中務, 秀嗣, 竹下, 暁子, 平澤, 恭子, 安達, みちる, 榊原, みゆき, 猪子, 香代, 小国, 弘量, 永田, 智 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032052

第51回東京女子医科大学・神経懇話会

日 時：2018年1月23日（火）18：00～20：00

場 所：東京女子医科大学 健保会館 地下1階 会議室

一般演題 18：15～19：00

座長（画像診断・核医学科）阿部光一郎

1. 四肢の震えと歩行困難を主徴とし転換性障害と診断した13歳女子

（東京女子医科大学¹ 卒後臨床研修センター，²小児科，³リハビリテーション科，⁴小児科心理室）山岸沙衣¹，
大谷ゆい²，伊藤 進²，白倉茉由子²，元栄薫子²，中務秀嗣²，竹下暁子²，
平澤恭子²，安達みちる³，榊原みゆき⁴，猪子香代²，小国弘量²，永田 智²

2. Compressed SENSE 併用頭部 TOF-MRA の画質評価

（東京女子医科大学画像診断・核医学科）阿部香代子，鈴木一史，石崎海子，大橋良子，坂井修二

3. 軽度認知障害において頭部 MRI 白質病変が認知機能に与える影響

（東京女子医科大学神経内科）関 美沙，吉澤浩志，久保田愛，星野岳郎，白井優香，遠井素乃，北川一夫

4. 2つの mTOR 複合体によるヒストンメチル化の協調的制御機構

（東京女子医科大学¹ 大学院，²病理学（第一））原地美緒¹，増井憲太²，柴田亮行²

特別講演 19：00～20：00

座長（画像診断・核医学科）坂井修二

認知症のアミロイド PET～タウ PET も含めて最近の話題を中心に～

（近畿大学医学部附属病院早期認知症センター）石井一成

当番世話人：（東京女子医科大学画像診断学・核医学）坂井修二

共 催：東京女子医科大学・エーザイ（株）

1. 四肢の震えと歩行困難を主徴とし転換性障害と診断した13歳女子

（東京女子医科大学¹ 卒後臨床研修センター，²小児科，³リハビリテーション科，⁴小児科心理室）

山岸沙衣¹・大谷ゆい²・伊藤 進²・
白倉茉由子²・元栄薫子²・中務秀嗣²・
竹下暁子²・平澤恭子²・安達みちる³・
榊原みゆき⁴・猪子香代²・小国弘量²・永田 智²

〔緒言〕四肢の震えと歩行困難を主徴とし転換性障害と診断した1例を経験したので報告する。〔症例〕13歳女子。手足の震えと歩行の困難が出現し当科紹介入院となった。神経学的診察では、四肢遠位に持続する振戦・ミオクローヌス様の不規則な震えと筋力低下を認めるも、徒手筋力検査の変動やジャンプが可能等の所見の不一致を認めた。頭部・脊髄 MRI、髄液、神経伝導速度検査等に異常は認めなかった。児童精神専門医および臨床心理士との面談により、強迫的な性質、母子関係の未熟性等が抽出され、転換性障害が強く疑われた。心理面には母子分離及び受容的対応、身体面にはリハビリテ

ションで介入したところ、徐々に四肢の震えが消失し歩行が可能となった。〔考察〕本症例では環境調整、支持的対応、理学療法により症状の改善が得られた。特に思春期以降に発症する多彩な神経症状においては、神経学的所見の不一致を認める場合には、転換性障害も考慮すべきである。

2. Compressed SENSE 併用頭部 TOF-MRA の画質評価

（東京女子医科大学画像診断・核医学科）

阿部香代子・鈴木一史・

石崎海子・大橋良子・坂井修二

〔目的〕Compressed SENSE (CS) を併用した頭部 TOF-MRA の画質評価より CS の有用性について検討した。〔方法〕対象は健常ボランティア8名。使用機器は Philips 社製 Ingenia 3.0T。①CS と撮像時間以外の撮像条件は同一とし、撮影時間を従来法 (CS 併用なし) 5分、CS 併用法 2.5分、2分、1分とした頭部 MRA、②撮像時間を同一とし、従来法と CS 併用により空間分解能を高く設定した頭部 MRA の視覚評価をそれぞれ行っ